

## 遺伝学に親しむ

責任者・コーディネーター		生体防御学分野 大橋 綾子 教授 生体防御学分野 丹治 貴博 助教	
担当講座・学科(分野)		生体防御学分野	
対象学年	2, 3	区分・時間数	実習 12 時間
期 間	後期		
単 位 数	0.5 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

遺伝子診断法やテラーメード医療の進展に伴い、薬剤師にとって遺伝学の基礎を身につけておくことは重要である。本実習では、遺伝学の優れた教材であり、2000年以降3度のノーベル賞の受賞対象となる成果を生み出した線虫（*Caenorhabditis elegans*）を用いた実験を通じて、遺伝学の基礎である遺伝子型と表現型及びそれらの関係について学ぶ。

### ・教育成果（アウトカム）

遺伝とその基本法則を学ぶことにより、遺伝子診断法やテラーメード医療の基礎となる基本的な知識を身につける。また、線虫の基礎生命科学及び医薬学における成果を学ぶことにより、モデル生物を用いた基礎研究の重要性を理解する。さらに、線虫の交配実験を行い、実験結果を考察し、表現型と遺伝子型の関係を調べることにより、動物実験の基本的な知識・技能を修得し、科学的・論理的に問題解決する能力を身につける。  
(ディプロマポリシー：7,8,9)

### ・到達目標（SBO）

1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。(400)
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。(361)
3. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物）について概説できる。(373)
4. モデル生物の基礎生命科学及び医薬学への貢献について、線虫を例に説明できる。(☆)
5. 蛍光実体顕微鏡を用いて、生物試料の組織や細胞を観察できる。(☆)
6. 交配実験で得られる個体における遺伝子型と表現型の関係を概説できる。(☆)
7. 自らが実施する実験に係る法規範を遵守する。(☆)
8. 意欲的に実験を実施し、成果をレポートにまとめることができる。(☆)

### ・講義日程

(矢) 東 351 生体防御学分野研究室

月日	曜日	時限	分野・学科	担当教員	講義内容/到達目標
2/4	火	3	生体防御学分野	大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教	ガイダンス：遺伝学の基礎 1. 遺伝学の歴史や遺伝の基本法則を学ぶことで、遺伝子と遺伝のしくみについて概説できるようになる。 2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。

					<p>事前学習：ゲノムサイエンスの講義の学習内容を復習する。</p> <p>事後学習：配付資料を用いて復習し、理解を深める。</p>
2/4	火	4	生体防御学分野	<p>大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教</p>	<p>実験(1)：線虫の取扱い</p> <p>1. モデル生物の基礎生命科学及び医薬学への貢献について、線虫を例に説明できる。</p> <p>2. 線虫の組織や細胞の観察に必要な基本的な取扱い技術を学ぶ。</p> <p>事後学習：配付資料を用いて復習し、理解を深める。</p>
2/5	水	3	生体防御学分野	<p>大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教</p>	<p>実験(2)：変異体と遺伝子導入線虫の観察</p> <p>1. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物）について概説できる。</p> <p>2. 蛍光実体顕微鏡を用いて、生物試料の組織や細胞を観察できる。</p> <p>事後学習：配付した演習問題に取り組む。</p>
2/5	水	4	生体防御学分野	<p>大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教</p>	<p>実験(2)：変異体と遺伝子導入線虫の観察</p> <p>1. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物）について概説できる。</p> <p>2. 蛍光実体顕微鏡を用いて、生物試料の組織や細胞を観察できる。</p> <p>事後学習：配付した演習問題に取り組む。</p>
2/6	木	3	生体防御学分野	<p>大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教</p>	<p>実験(3)：線虫の交配</p> <p>1. 交配実験で得られる個体における遺伝子型と表現型の関係を概説できる。</p> <p>2. 自らが実施する実験に係る法規範を遵守する。</p> <p>事前学習：前回までの配付資料を用いて復習し、理解を深める。</p>
2/6	木	4	生体防御学分野	<p>大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教</p>	<p>実験(3)：線虫の交配</p> <p>1. 交配実験で得られる個体の表現型を解析し、結果をまとめることができる。</p> <p>2. 自らが実施する実験に係る法規範を遵守する。</p> <p>事前学習：前回までの配付資料を用いて復習し、理解を深める。</p>
2/12	水	3	生体防御学分野	<p>大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教</p>	<p>実験(4)：交配結果の解析</p> <p>1. 交配実験で得られる個体の表現型を解析し、結果をまとめることができる。</p> <p>2. 自らが実施する実験に係る法規範を</p>

					遵守する。 事前学習：前回までの配付資料を用いて復習し、理解を深める。
2/12	水	4	生体防御学分野	大橋 綾子 教授 白石 博久 准教授 丹治 貴博 助教 錦織 健児 助教	レポートの作成 1. 自らが実施した実験結果を考察し、その成果をレポートにまとめることで、科学的・論理的に問題解決する能力を身につける。

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	ヒトの分子遺伝学 第4版	Strachan 他 村松 正實、木南 凌 監訳	メディカルサイエンス・インターナショナル	2011
参	細胞の分子生物学 第6版	Alberts 他 中村 桂子／松原 謙一 他 監修	ニュートンプレス	2017
参	線虫ラボマニュアル	三谷 昌平 編	シュプリンガー・フェアラーク 東京	2003
参	研究をささえるモデル生物: 実験室いきものガイド	吉川 寛、堀 寛 編	化学同人	2009
参	線虫の研究とノーベル賞への道	大島 靖美 著	裳華房	2015
参	The Nematode <i>Caenorhabditis elegans</i>	William B. Wood 他編	Cold Spring Harbor Laboratory	1988
参	<i>C. elegans</i> II.	Donald L. Riddle 他 編	Cold Spring Harbor Laboratory	1997

・成績評価方法

実習態度（50%）、レポート（50%）を評価する。

・特記事項・その他

日程については、他の自由科目や学事と両立できるよう、受講者と相談の上柔軟に対応する。（記載は例、基本2コマずつ4日間）

必要資料は担当分野で準備する。

配付資料や参考書を用いて予復習を行うこと。各コマに対して、事前・事後学習に80分を要する。実習内容の理解を深めるための演習も行い、翌回の講義で解説する。授業中に疑問に感じたことを理解するよう、積極的に取り組みむこと。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	実体顕微鏡（オリンパス、SZX16、SZX10）	3	生物試料の取扱い及び観察
実習	落射蛍光照明装置（オリンパス、SXZ2-RFA10-2）	2	生物試料の蛍光観察
実習	インキュベータ（三洋電機、MIR-253）	1	生物試料の飼育
実習	ホースレスバーナー（phoenix dent、APT 3）	3	器具の滅菌
実習	恒温室（島津理化、STAC-N400M）	1	実験温度の管理